

目次

- ◆
 - ・FIT2024 (第22回情報科学フォーラム) 開催のご報告
〔企画幹事〕 堤 公孝 (長崎大学)
 - ・HCGシンポジウム2024開催のご案内
〔企画幹事〕 赤坂 文弥(産総研)
 - ・2025年総合大会投稿のご案内
〔企画幹事〕 堤 公孝 (長崎大学)
 - ・研究会活動紹介 (HIP)
 - ・研究会活動紹介 (LARC)

FIT2024 (第22回情報科学フォーラム) 開催のご報告

〔企画幹事〕 堤 公孝 (長崎大学)

第23回情報科学技術フォーラム FIT2024が、9月4日(水)から6日(金)まで、広島工業大学五日市キャンパスにおいて開催されました。本フォーラムは、電子情報通信学会の情報・システムソサイエティ (ISS) とヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)、及び情報処理学会とが協力して開催する大会です。従来の大会の形式にとらわれずに、新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流などを実現することで、2002年から毎年継続して開催しております。

今年度は、現地会場を主体としたハイブリッド形式での開催となりました。近年好評を博している「トップコンファレンスセッション」では、今年は、3日間で計15セッション、87件の発表をしていただきました。

情報技術分野における顕著な業績に対して贈られる船井業績賞を受賞されたLing Liu先生 (Professor, School of Computer Science, Georgia Institute of Technology) の受賞記念講演も行われました。

次回は、2025年9月3日(水)～5日(金)に、北海道科学大学で開催予定となっております。

参考情報

- ・FIT2024ウェブサイト：<https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2024/>
- ・FIT2025ウェブサイト：<https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2025/>

・HCGシンポジウム2024開催のご案内

〔企画幹事〕 赤坂 文弥(産総研)

今年度で22回目を迎えるHCG シンポジウム2024を2024年12月11日(水)から12月13日(金)の日程で、石川県金沢市にて開催いたします。

HCGシンポジウムは、工学分野だけでなく、ヒューマンコミュニケーションに関係が深い、心理学・認知科学、社会科学、生理学、デザイン学など幅広い分野の研究者が参加しやすい、活発な議論の場を提供してきました。

今回のシンポジウムは、対面のみでの開催となります。様々な研究者が集まり、母国語で自由に議論することができる、貴重な機会となります。

今年度のシンポジウムでは、AI研究の専門家、サービス研究の専門家による招待講演を予定しています。どちらの講演者も、当該分野で先頭を走る「フロントラ

ンナー」です。みなさんのこれからの研究のヒントとなるような学びが多く得られることと思います。ぜひご期待ください。

特集テーマセッションは、「ロケーション・インフォマティクス」、「ユーザーニーズに即した視覚障害者支援」、「顧客体験の個人最適化デザイン」、「ソーシャルインタラクション」と、いずれも大変魅力的な4セッションをオーガナイズして頂いています。

また、特別セッションでは、「遠隔ヘルスケアのための多感覚XR-AI」、「未来ビジョン創造のためのデザインとテクノロジー」、「体験産業に向けたサイバーフィジカル技術とその評価」の3セッションが予定されています。

一般セッションでの発表についても多くの申込があり、計120件を超える発表が予定されています。大変活発な議論が期待できます。是非ご参加を検討ください。

最新情報につきましては下記Webサイトをご覧ください
<https://www.hcg-ieice.org/hcg-symposium/2024/>

-
- ・ 2025年総合大会投稿のご案内
〔企画幹事〕 堤 公孝（長崎大学）
-

電子情報通信学会では、例年、春に総合大会、秋にソサイエティ大会を開催しています。今回は、ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）を含む4ソサイエティグループが一堂に会して、以下の要領で総合大会を開催いたします。異なる分野の研究動向の効率的な調査、参加者との交流等にもご活用ください。皆様のご講演申込み、ご参加を心よりお待ち申し上げます。

会期：2025年3月24日（月）～ 28日（金）

会場：東京都市大学世田谷キャンパス

詳細は、大会Webサイト

https://www.ieice.org/jpn_r/activities/taikai/general/2025/list.html
をご確認ください。

-
- ・ 研究会活動紹介（HIP）
-

ヒューマン情報処理（HIP: Human Information Processing）研究専門委員会は、その名の通り、人間の情報処理に関わる研究発表を行い、交流することを目的として活動しています。視覚や聴覚といった感覚・知覚情報処理に関する研究が中心ですが、最近では、高次認知に関わる研究発表も増えてきています。また、関連する研究領域は、心理学、工学、脳科学、生理学、情報学、社会学と多岐に渡り、学際性の高さが特徴となっています。さらに、基礎的な研究だけでなく、新しいインタフェース技術やバーチャルリアリティ技術などに関する応用的な研究も発表されています。

本研究専門委員会では、例年6回の研究会を開催しています。2024年度には、5月13日（月）、14日（火）に沖縄産業支援センターにて「コミュニケーション支援」をテーマとして（共催：HCS、連催：HI学会SIG-COASTER）、7月12日（金）に札幌市立大学サテライトキャンパスにて「イメージ・メディア・クオリティ」をテーマとして（共催：IMQ）、10月24日（木）、25日（金）に京都経済センターにて「眼球運動（調節、瞳孔を含む）、空間知覚（奥行き知覚・運動知覚等）、感性工学」をテーマとして（共催：日本光学会視覚研究グループ・日本感性工学会視覚感性研究部会）、研究会を開催しました。また、12月16日（月）、17日（火）には、東北大学電気通信研究所にて「マルチモーダル、感性情報処理、視知覚とそ

の応用、生涯学」をテーマとして（共催：学術変革領域研究A「生涯学の創出—超高齢社会における発達・加齢観の刷新」、日本心理学会「注意と認知」研究会、日本認知心理学会感性学研究部会、東北大学総合知インフォマティクス研究センター、東北大学電気通信研究所音響工学研究会）、2025年1月24日（金）、25日（土）には、立命館大学大阪いばらきキャンパスにて「VR/MRにおけるインタラクシオン支援」をテーマとして（共催：HCS）、2025年2月（日程・場所未定）にも研究会を開催する予定です。テーマおよび共催・連催先が多様であることから、本研究専門委員会の「守備範囲の広さ」を理解していただけるのではないかと思います。

今後も学際性と守備範囲の広さを生かしつつ、様々な学会・研究会と連携しながら活動の場を広げていきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。

HIPに関する最新の情報は、下記のホームページをご参照下さい。
<https://www.ieice.org/hcg/hip/index.php>

・研究会活動紹介（LARC）

リアルタイムコミュニケーション言語研究会(LARC)は、手話関係の研究、聴覚障害者支援、言語学的な研究者を中心に学際的に手話を中心としたマルチモーダルコミュニケーションのメカニズム解明のためのコミュニティ形成と意見交換の場を提供することを目的として、発足8年目を迎えました。この間、研究会のメンバーを中心に実施された科研費基盤研究(S)「多用途型日本手話言語データベース構築に関する研究」(17H06114)には、手話に関する様々な研究分野で利用できる汎用的な手話映像データベースKoSignの開発に取り組んできました。現在は国立情報学研究所(NII)の情報学研究データリポジトリ(IDR)から研究者向けに無償で公開されています。

KoSignは、プロジェクトで選定した6,000超の手話単語動作と数対話について、手話ネイティブ家系の日本手話母語者の協力のもと、映像・モーションキャプチャなどの複数の装置を用いて高精細・高精度のデータを収録したデータベースです。撮影対象者は手話ネイティブ家系の日本手話母語者2名（男性1名、女性1名）、撮影は東映東京撮影所のモーションキャプチャスタジオにて実施されました。正面と左右方向から4KまたはフルHDカメラで撮影し、光学式モーションキャプチャによる3次元動作データと、Kinectセンサによる深度データも同期収録されています。IDRからは男性手話者の収録データ一式と、女性手話者の3次元動作データおよび深度データのほか、プロジェクトで開発された専用解析ツール（描画・アニメーション支援システム）も合わせて提供されています。

KoSignの単語データは公開されているデータとしては世界最大規模であり、第1期提供分は1単語に対し1動作パターンの3,701単語、第2期提供分は1単語に対し複数の動作パターンが存在する1,172単語（動作数としては2,655）が含まれます。また、対話データについては、第1期提供分は3対話、第2期提供分は7対話が含まれ、日本語による訳も付与されています。これらのデータには手と顔を中心に全身で112か所を測定した三次元データが含まれ、空間分解能0.5mm、時間分解能119.88fpsの精度を持ちます。

KoSignは手話以外での活用も期待されています。手話では、手の動きだけでなく顔の表情や視線も重要な要素であるため、このデータベースは全身の112か所に取り付けられたマーカで三次元位置を計測しています。これらの3次元動作データや映像データは、皮膚や筋肉の動きなど生物学的な領域でも活用可能と考えられます。言語学、情報学の観点から解析しても、様々な知見が得られると見込まれます。HCグループの皆様もぜひご活用ください。

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について、

